



【他県のバリアフリー観光相談窓口の運営状況等】

		秋田県（県等）	山形県（県等）	三重県（民営）	佐賀県（民営）
基本情報	相談窓口名称	秋田バリアフリーツアーセンター	やまがた観光情報センター	伊勢志摩バリアフリーツアーセンター	佐賀嬉野バリアフリーツアーセンター
	運営主体	秋田県観光連盟	山形県 （山形県から山形県観光物産協会への指定管理委託）	NPO法人伊勢志摩バリアフリースーツアセンター	NPO法人佐賀嬉野バリアフリースーツアセンター
	人員体制	センター長1名、担当者2名	スタッフ3名（常駐2名）	スタッフ4名（常駐）	スタッフ3名（常駐2名）
	場所	県観光連盟内(県庁第2庁舎1F)	霞城セントラル1F(JR山形駅直結)	鳥羽一番街（JR鳥羽駅すぐ）	嬉野バスター1F(観光協会と隣接)
	開設	平成28年	平成29年	平成14年	平成19年
	営業日	毎日（土日祝は電話のみの受付）	毎日	木曜定休	日曜、元日休み
	相談件数	約90件	5件/年	約1,000件/年	300～400件/年
主な業務内容	バリアフリー調査	○		○	○
	相談対応	○	○	○	○
	HP等による情報発信	○	○	○	○
	車いす等の機器貸出			○	○
	人的介助サービス			○	○
	バリアフリー研修会			○	○
運営財源（主な収入）	○観光連盟事業（秋田県からの補助金）	○観光物産協会事業（※山形県からの指定管理委託の延長）	○会費 ○車いす貸出し ○研修会 ○県・市等からの委託業務 ※設立当初4年間は県からの補助金	○車いす等機器貸出 ○人的介助サービス ○県、市からの委託業務 ※設立当初3年間は県からの補助金	
その他	○収益を上げる事業の実施に向けた検討や職員の人事異動や退職によるノウハウの流出が課題	○観光情報センターの窓口スタッフは調査を実施しているわけではないので提供できる情報が限られたものとなるのが課題。	○設立より5年目以降は県等からの補助金はなし。 ○H17→H29比で伊勢神宮への車いすの参拝者は2.9倍に増加	○4年目以降は県等の補助金はなし ○福祉事業者と連携した入浴介助サービスは全国敵にも先進的な取組	

【高知県での開設イメージ】

運営主体				
場所				
運営財源				
メリット				
デメリット				